

館報

庄内



庄内地区	
令和元年7月1日現在人口	
世帯数	6,964 戸
男	7,383 人
女	7,367 人
合計	14,750 人
発行 庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)	
電話 24-1811	
FAX 24-1812	

判断力、思いやり、的確な指示！
水害危機対応をリアルタイムで疑似体験！

6月15日(土)、「命を守るための備え」と題し、長野県生涯学習推進センター、長野県公民館運営協議会によるHUG(ハグ)避難所運営ゲーム)が、庄内地区公民館で開催されました。講師は実際に阪神・淡路大震災を体験され、現在地区防災計画等に焦点を当て研究されている田中健一氏。今回は近年多発する洪水被害をテーマに、避難所運営の難しさをゲーム形式でリアルタイムに体感しまし



兵庫県広域防災センター 防災教育専門員 田中 健一氏

冒頭で、報道では伝えていない実際の災害時の大変さをお話いただきました。改めて災害時の備えの大切さを実感すると同時に、その備えも災害時には不十分であることも再認識することができました。

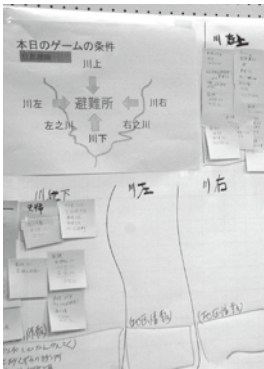
避難所運営ゲームは避難所となる並柳小学校と筑摩小学校を想定してスタート。庄内地区の各町会別にチームを作り、講師の田中氏から指示される避難住民の状況を瞬時に判断し、的確に避難場所に誘導して行かなくてはなりません。また、河川の氾濫や土砂崩れ等、刻々と変化する地域災害状況も整理し揭示して行かなくてはなりません。そのため、リーダー(指示役)、避難者の誘導係、避難者リストの制作係、被害状況の記載係と、避難所での役割を明確にしてのチームワークが求められました。

田中氏から指示される避難住民は、認知症を患われた高齢者、透析治療をされている方、引きこもりの子どもさんを持つての住民、車で来られる住民、小さな子どもを連れたお母さん、後から合流する家



族...と、さまざま。立て続けに指示されるので、判断・指示・誘導がスムーズにできません。さらに地区内に孤立する住民からの救助要望も同時に入ってきます。時間がたつにつれ混乱するばかり。会場は、あちらこちらで大きな声が飛び交い、まさにリアルタイム感覚での避難所訓練となりました。

今回の意図は、「これだけ避難所運営は大変である」ということを体感するに留まっ



機に「的確な指示方法」、「思いやりのある誘導方法」、「正確な災害時報道方法」等、住

参加者からの感想は？

- ◆「自分が死なない」ことの重要性を感じた(複数)
- ◆実際に避難したときの大変さが分かった
- ◆参加者が全て役割を決めて取り組んでいた。このような研修はとても有意義であった
- ◆実体験の話はよりリアルで、今後地区への災害に対する不安が高まったのと同時に、準備の必要性を強く感じた
- ◆筑摩小で2回避難所訓練をやった経験が役立つ
- ◆この研修をどう活用するか
- ◆町会の会議の中や飲み会の中で、多くの人に体験したことを話せる。万一の時、活用できると思う
- ◆ドリム庄内、防災運動会にもゲームとして取り入れられると思う
- ◆地域住民にテキストの内容を周知させたい
- ◆課題と感じていること
- ◆役員が高齢者中心で若い人が少ない。高齢者や体が不自由な方をどう避難させるのか
- ◆できるだけ小さな集団で体験し、意識の共有が求められると思う

生活の不便利さ? 運転への怖さ? 考えをせられる高齢ドライバーの運転免許自主返納

近年、高齢ドライバーによる痛ましい事故が立て続けに発生し、大きな社会問題となっている。庄内地区においても心配になるところだ。

今回の館報では、高齢ドライバーと免許返納について特集を組んだ。

返納を考えたためらってしまっ。車中心の日常生活

現代社会で車を必要としなのは、公共交通機関が整備された大都会だけで、地方では、どこへ行くにも、何をするにも車がなければ生活できない。多くの高齢ドライバーは、「農作業で車を使っている」、「高齢で一人暮らしなので、車がないと暮らせない」といった日常生活に直結した悩みの他、「好きな時に好きな所へ行けなくなるのが寂しい」、「運転免許証を自主返納する話を聞くと、暮らしのことを考えるとためらいが」という意見も。さらに、70歳を過ぎると運転免許証を更新していくハードルも上がっていく……。高齢ドライバーは、当たり前の日常を暮らしているため、やむを得ず車を使っているのだ。

運転免許証の自主返納を決意した方々は?

それでは、運転免許証を自主返納した方々は、どのような思いだったのだろうか?

例えば、今まで無事故無違反だったが、ふとしたことで自損事故を起こしてしまったことを機に運転をやめることを決意した方や、ゴールド免許のまま自主返納をした方がいるとか。自主返納の相談や返納数も、年々増えているのだという。しかし、運転免許証の自主返納は、特別な理由がない限り、人それぞれの任意である。従前の不安や問題点が解決されなければ、返納した方々はどう生活していくのか?

車がなくても生活できるように。市の施策と「運転経歴証明書」

松本市では、「福祉1000円バス」事業があり、市内在住で満70歳以上の方や、各種福祉手帳等をお持ちの方は、松本市内のバス路線と西部地域コミュニティバス、上高地線電車全線が乗車1000円で利用できる。そして、運転免許の自主返

納をした方は、有料だが手続きを踏むことで運転経歴証明書の交付を受けられる。

運転経歴証明書は金融機関での身分証明書に利用できる他、県タクシー協会事業者登録されたタクシー会社であれば、料金が割引になる制度もある。ただし、更新手続きをしないで免許が失効してしまっからでは運転経歴証明書が発行はできないので注意が必要だ。

また、相談窓口も、市だけでなく、松本警察署でも受付が可能だ。庄内交番からも、少しでも運転に不安を覚えたら、どんなことでもいいので相談してほしいとのことだ。

車のない生活について、もう一度考えてみよう

さて、様々な制度はあるものの、それらは人それぞれの生活に合ったものだろうか? 買い物については、生活用品や食料は通販や宅配サービスを活用し、それ以外は友人らと乗り合い等で楽しい買い物に出かける方もいるようだ。どうしても車が必要な場合であれば、通行ルートや時間帯を点検することで、危険回避やリスク低減の可能性を追求していきたい。

また、車の維持費はどうだろうか? 購入費用、車検、保険代や燃料代等の維持費と、タクシーや公共交通機関にかかる費用のどちらの負担が少ないのか?

しかし、このような事項を自分だけで判断するのは大変なことである。可能であれば家族、友人、その他様々な行政機関等に相談することが大切ではないだろうか。

終わりに

今回の取材を通じ、自治体の考えは、高齢ドライバーにできるだけ免許を返納してほしいということを感じた。また、ある返納者からは「不安に思いながら運転するより、(免許を返納したこと)で気が楽になった」という発言もある。車は便利であるが、同時に交通事故というリスクも抱えている。

子供をはじめとする交通弱者を守るためにも、一人ひとりが我が事として考えていきたい。

取材協力・各相談先

- 庄内交番
- ☎0263・25・4433
- 松本市交通安全・都市交通課
- 及び松本市高齢福祉課
- ☎0263・34・3000

(代表)



私の父が「誕生日を迎える前に運転免許の返納をしたい」と言い出した。年齢的には、とうに返納を考える時期を過ぎており、自分から言い出してくれてとても安心した。

以前新聞の特集に、運転免許返納に関する記事が出ていたことを思い出した。そこには、家族が高齢者の親に返納を促したところ、なかなか理解されず返納に至らないことが多いとのことだった。

最近、高齢者ドライバーによる大きな交通事故が多発し、社会問題化してきている。そんな点から返納を進める必要性は大切なことは十分理解できる。その反面、返納後の買物や通院などの生活支援も同時に考慮する必要もあるのではないかと感じる。

さらに外出機会が減り、家に閉じこもりがちになると、少々発展的だが、それが要因となり、認知症の発症リスクが高まることも考えられる。

卵が先か鶏が先か：ではないが、返納を促すと同時に返納後の生活環境面のサポートまで、家族、隣人、地域、行政含め、幅広い対策が求められるのではないだろうか。(m)